



「『つながり』を学ぶモビリティ・マネジメント教育」

大阪大学大学院工学研究科ビジネスエンジニアリング専攻准教授 松村 暢彦

モビリティ・マネジメント教育は、『つながり』をテーマにしています。

モビリティ、移動は自宅からお店、駅から病院など“場所と場所をつなぐ”機能があります。もう少し広く見ると大阪と東京、東京と札幌などもっと広域な地域と地域をつなぐともいえます。また、となりのお爺さんが病院に行くといったように、“人と場所をつなぐ”という視点もあります。さらには、バスの車内で席をゆずる場面を思い浮かべると“人と人をつなぐ”視点も含まれます。

このようにモビリティは、場所と場所、人と場所、人と人をつなぐ機能をもともと持っています。しかし、そのつながりが損なわれてしまったために社会のさまざまな問題が起こっていると考え、モビリティをうまくつなげるようにマネジメントして社会をよくしようとするのです。

たとえば、夕食の買い物をとりあげたフードマイレージの教材を例にとり考えてみましょう（教材の詳細は <http://www.aozora.or.jp/foodmileage/>を参照して下さい）。農産物や水産物の産地とわれわれが暮らす消費地が遠く離れて、環境負荷や食のリスクが増大しているので、地産地消のしくみと行動でうまくつなげようとしています。

また、クルマを持っていないお爺さんが日常生活の買い物もままならないため、日ごろから公共交通を使ったり、コミュニティバスを走らせたりすることを考えます。そして、毎日の買い物を考えるお母さんや地域に住むお爺さんの困り果てた気持ちを自分事としてとらえる他者への共感と配慮を学びます。

このように私たちの日常生活と地域、社会をつないで考える視点を学ぶことができるのがモビリティ・マネジメント教育なのです。